

介され、かくて、新發見の梵文を妙本と比較して、本文的價値を推疑し、一々梵文を表記して一目判然とした精密な論文である。法華研究を當面的として居る同氏の如きに取つて、斯る新材料の提給を得たのは、恰も旱天に雲霓を望んだ感があつたらうが、その勢は、論究の上に歴々と印して居る。同好専門家の愛讀を切に歎めて置く。次に萩原氏の梵文無量壽經批議も、先號からの続きで、本號には、四十一節から最後七十八節に至る迄の梵語字句の詳密な批評が加へられてある。同經の研究上、少なからぬヒントを與へるであろう事は云ふ迄も無く、吾人は斯る批議に刺戟されて、本文を詳細するの慣習を養成したいと思ふ。後學の吾人は深く氏に感謝して然る可きである。以上は本欄の太要であるが、尙ほ雜纂中には在印度甲谷他の同教蓮氏が、『現存佛教梵本日録』なる者を報ぜられ、五十九種の現存梵本について、一々經題とその説明、註解、作者杯を指要せられてある。多くは秘密部の儀軌類が主であるらしいが、實地に彼に在て研究しつゝある者の、斯る報告は、吾人を利する處尠少でないから、大に歡迎すべきである。尙ほ終りに一言して置き度いのは、宗教研究會が成立以來、日尙ほ深からぬのに、漸次會員も増加し、社會の道俗何れを問はず、此の眞摯な研究機關に依て、宗教の新生命を捕へようとする士の擧つて集り來る事は、洵に慶幸に堪へない事であるが、會員外の士も、大に隨贊愛讀するの、増加せん事を希望して已まない者である。東京博文館發行。定價七十五錢(手島文倉)

佛像の研究

小野玄妙著

九八

この書は、印度、支那、日本に流傳せる大小顯密の佛像の形相を經律儀軌の本文に據つて説明したものである、序説に於て佛像研究の用意、造像の三大史的變遷、佛像の安置せられたる方式に據る觀察の仕方、變相、眞言の修法と其本尊、曼荼羅の種類等、要するに『何佛の像であるか』と言ふことを觀察する上の一般的知識を與へ、進んで第二章以下に於て、佛菩薩明王天部の諸像を網羅して、夫れを一々平易に且つ簡明に説述する。著者の言ふ如く、さきに同氏の著した『佛教美術概論』の各論の一部に相當するもので、佛教美術に關し、この方面の知識を必要とする種々の研究純美術的研究以外の諸種の研究に従ふ人が彼の書と共に必ず參考に供すべき有用なる著書である。東京市小石川區原町六番地丙午出版社發行定價金二圓。(植田)

寄贈書籍雜誌

- 日本基督教史 山本秀煇著 洛陽堂
 スズノサ哲學大要(エチカ) 文學士小尾鐘治譯 岩波書店
 天竺四教儀禮話 境野黃洋著 丙午出版社
 哲學雜誌 思湖 丁酉倫理講演集 心理研究 六合雜誌 東洋哲學 無盡燈 東亞之光 早稻田文學 學校教育 教育内外教育評論 普通教育 教育研究 教育學界 教育界 教育時論 東京